

コシヒカリの等級向上に、葉色をみて穂肥量を調整する方法が有効です

現状

鳥取県コシヒカリの一等米比率は近年低迷しています

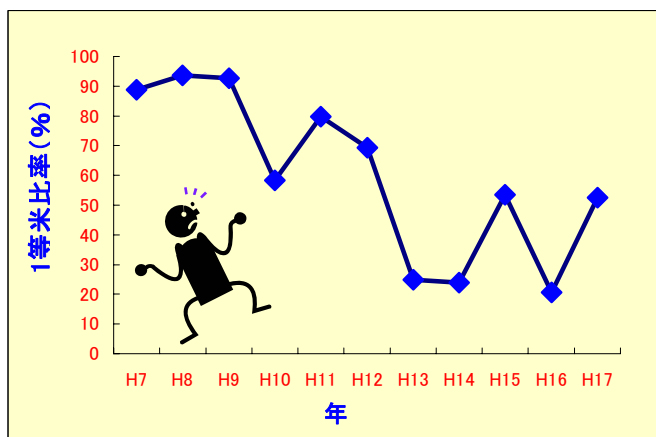
等級が悪い原因の一つは心白、乳白粒が多いことです

整粒(きれいな米)



心白粒

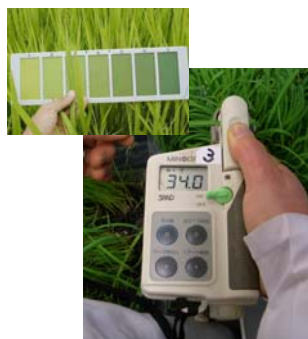
乳白粒



鳥取県コシヒカリの一等米比率の年次推移

対策のポイント

第2穂肥施用直前(出穂前約10日)の葉色が葉色計で34(葉色板で3.5)になるように、1回目の穂肥量を調整します。



第1穂肥窒素量の施用目安(案)

施用直前の単葉葉色	窒素施用量 (kg/10a)
31未満	2
31~34	1
34以上	0

葉色値

34



第1穂肥施用前の葉色の濃さをみます

※ 葉色板でも大丈夫

葉色の濃さによって施肥量を加減します。

※ 施用量はほ場により異なることがあります

第2穂肥施用前の葉色が34付近なら◎

この情報は、30年間堆肥を入れたほ場、入れないほ場、化学肥料を施用したほ場、施用しないほ場での調査結果を解析したものです。

表1 等級と相関の高かった調査項目

項目	相関係数
稈長	0.77
収穫期窒素吸収量	0.76
倒伏(9/16~22)	0.74
第1穂肥直前葉色	0.73
葉色(7/14~16)	0.72
第2穂肥直前葉色	0.71
登熟歩合	-0.70

- ・等級の主な格落ち理由は心白、乳白
- ・調査年はH15~H17

穂肥量で人為的に調整しやすい

葉色34~35で収量性も維持できる
品質、収量面から第2穂肥直前葉色の目標値は34が適当

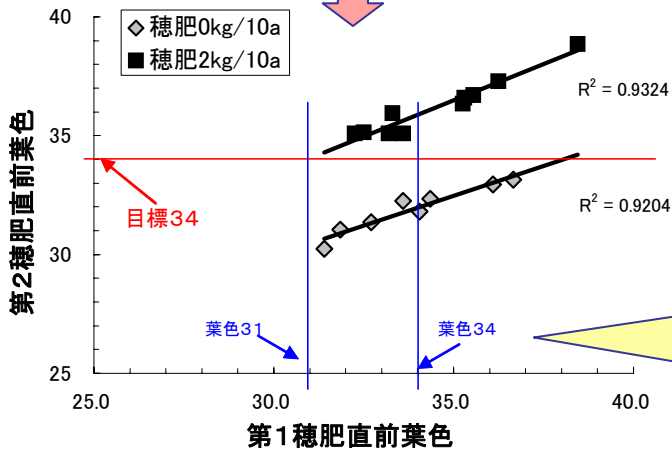


図3 第1穂肥窒素量と第1穂肥直前葉色と第2穂肥直線葉色の関係

第2穂肥の施用法は「食味向上のためのコシヒカリ穂肥施肥用」(平成7年新技术)を参考にしてください。

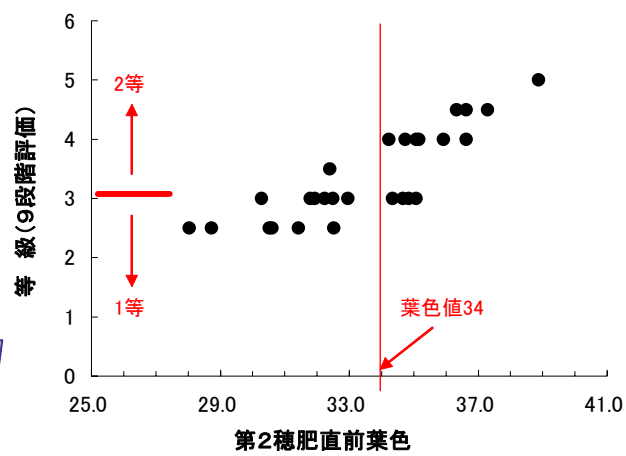


図1 第2穂肥直前葉色と等級の関係

葉色34以下で1等になる確率が高い

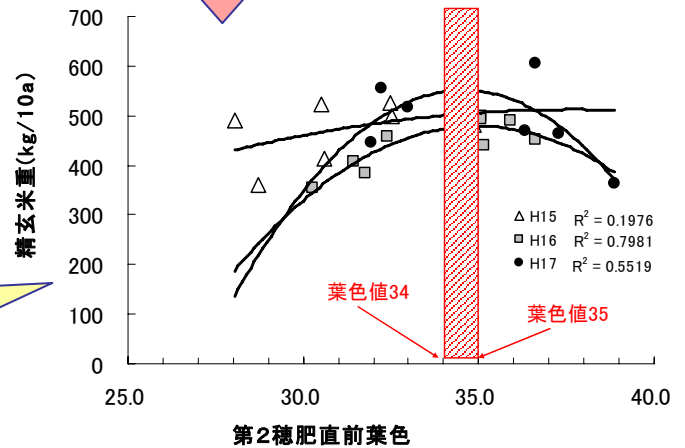


図3 第2穂肥直前葉色と精玄米収量の関係

第1穂肥施用直前の葉色から、目標の第2穂肥施用直前葉色34にする施肥量が推定できる。

この関係から表紙にある第1穂肥窒素量の施用目安を作成。

＜お問い合わせ先＞

鳥取県農業試験場 環境研究室

坂東 悟

TEL (0857)-53-0721

※本書から転載複製する場合には必ず鳥取県農業試験場の許可を受けて下さい